

## 賛助会員訪問記

株式会社 村田製作所 マテリアル技術センター 訪問

ホームページ : <http://www.murata.com/ja-jp>

2017年5月19日13時10分～15時40分 株式会社 村田製作所 マテリアル技術センター（滋賀県野洲市）を高野良紀総務理事、押木満雅事務局長、杉村事務局職員の3名で訪問した。JR野洲駅（京都より東海道本線で米原方面に約30分）よりタクシーで15分ほどの近江盆地南東端に近い山ふもとに27万平方メートルの野洲事業所があった。正門より程近い場所にある、4階建のマテリアル技術センターに於いてマテリアル技術センター無機材料開発部 中村彰宏 シニアマネージャー、企画管理課 廣田正樹 シニアマネージャーおよび企画管理課 加地敏晃 シニアスペシャリストに対応して頂いた。

まず、会議室ではムラタセイサク君®とムラタセイコちゃん®に迎えられた。二人とも思わず触りたくなる様な愛くるしい容姿であった。最初に廣田氏よりOHPを用いて村田製作所全体の紹介をして頂いた。同社は1944年に京都の焼物を電子機器向けに応用したコンデンサ製作会社として設立された。チタン酸化物を皮切りにチタン酸バリウムなどのセラミックコンデンサを基礎に、自社保有技術以外をM&Aなどにより取得しながら技術範囲を広げて、コンデンサのみならず電子部品LCRの全ての領域とさらに部品を組み合わせた機能モジュール製品などを開発し現在の膨大な電子部品群を開発・生産・販売している。同社は、原材料・基盤技術の開発、分析・管理、生産機器製作・製品供給など垂直統合を目指しており、売上の90%以上が海外セットメーカー向けであり世界各地のニーズ把握のために海外拠点と定期的ミーティングを行っている。スマートフォンや自動車産業の好況により売上が伸長している。野洲事業所は1987年に建設され約4,000名が勤務しており、研究開発および一部材料製造を行っている。創業者の「緑を大切に」の意思を継ぎ、地域に根差した地球環境を守る活動にも熱心に取組んでいる、などの説明があった。

次に、中村氏からマテリアル技術センターの説明を頂いた。「よい電子機器はよい電子部品から、よい電子部品はよい材料から」とのスローガンのもと、誘電体、半導体や磁性体などの材料から積層技術、薄膜・厚膜成膜技術および巻線技術などを駆使して、材料開発から部品開発までを商品開発部門と共同で手掛けている。材料から部品まで統合した開発を行っているため、製品の問題点を材料や製法などの改良により克服出来る強みを持っている。最近の製品は微細化が進み、0.4×0.2mmセラミックコンデンサが約300層の積層で構成されていると実物を見せられその小ささと技術の高さに驚くとともに、1個あたりの価格の安さを聞き更に驚いた。今後、電子機器類の車載化進展により電子部品使用環境が広がるので電子部品開発の難しさも増して来るなどの説明を頂いた。

その後、マテリアル技術センター内部をご案内頂いた。4階では塩田氏からセラミック開発の説明を受けた。実験室の中では誘電体や磁性材料などの混合粉碎、秤量などが行われていた。3階では井上氏より有機分析の説明を頂いた。化学実験室が並び、FTIRやクロマトグラフィなど化学分析機器により分析が行われていた。1階では嶋氏より物理分析について説明を頂いた。WDX、SEM、EDX、SPMやFIBなどの表面分析機器が並び分析が行われていた。これらの分析機器を揃え、またメンテナンス、更新など莫大な設備投資が行われている事を肌で感じ、社是にある「技術を練磨し」、「科学的管理を実践し」を着実に今日も踏襲している姿に頭が下がる思いであった。

## 賛助会員訪問記

創業者の精神が今も受け継がれており、常に革新を心がけ、時代の変化に臨機応変に対応し、他社との価格競争に陥らない独自製品を生み出し続けて業界トップを走っている堅実で先取的な経営姿勢に京都の企業の逞しさを感じた。その余韻を味わいながら、か細い稲が田植え直後の水田で風にそよぐ姿を車窓から見ながら帰途についた。



野洲事業所入口



野洲事業所開発棟



ムラタセイサク 君®



ムラタセイコ ちゃん®



会議室で